

【配点】 ①・②・③ 各2点×20 ④・⑤ 各4点×15

1				
5	4	3	2	1
追加	地帯	念願	海底	右折
10	9	8	7	6
きょくりょく	はつが	四季	配給	仲間

2				
1	2	3	4	5
黒	百	白	四	鳥

3				
1	2	3	4	5
イ	ウ	ア	ア	イ

4						
5			4	3	2	1
C	B	A	押	あとのらんにかきなさい。	イ	社
み	爪	牙	さ		会	
			え		性	
			込			
			む			

5							
8	7	6	5	4	3	2	1
イ	ア	ア	ア	ウ	エ	あとのらんにかきなさい。	ア

【記述題解答らん】

4							
3							
か	が	を	独	る	に	が	隠
ら	で	と	で	た	住	な	れ
。	き	る	は	め	ん	い	る
	な	こ	エ	、	で	平	場
	い	と	サ	単	い	原	所

(3 同意可)

5					
2					
	行	う	か	い	き
	く	に	ら	母	げ
	た	遊	な	に	ん
	め	び	い	見	の
	。	に	よ	つ	悪

(2 同意可)

1 (漢字の書き取り・読み取り)

2 「海底」の「底」を「低」としないように気をつける。字形も、最後の横棒を忘れる者が時々いるので要注意である。また、かなり細かいことではあるが、厳密にいえば、「氏」の部分がまるごと「一」の上に乗っているような書き方は望ましくないのも気を付けよう。3 「念願」は「念」の上半分を「令」のように書かないよう注意する。4 「地帯」の「帯」は字形も複雑だが、筆順も出題されやすいので確認しておこう。筆順を覚えることで正しい字形も頭に入りやすくなる。7 「配給」は字形もさることながら、意味に注意を払いたい。「配」は「くばる」だから「配達」「配送」「分配」といった熟語を作る。「給」は訓読みを小学校では習わないので意味がつかみにくいかもしれないが、「給食」「給料」「給付」といった熟語を作ることからだいたいの意味を察することができる。こうしたことを意識しながら学習すれば漢字は頭に入りやすくなるし、使える知識になる。8 「四季」は「季」をうっかり「委」としないように。「委」は「ゆだねる」と読み、「委員」「委任」といった熟語を作る字である。9 「発芽」の「芽」は訓読みが「め」、音読みが「ガ」である。10 「極力」の「極」の音読みは「キョク」と「ゴク」があるので気をつけよう。

2 (三字熟語・四字熟語)

最も頻繁に出題されるのは、体の一部を表すことばを用いたもの、動植物と関連のあることばを用いたもの、色を表す漢字を用いたもの、漢数字を用いたものなどである。意識して覚えておこう。

3 (敬語)

アが尊敬語、イが謙譲語、ウが丁寧語である。  
 1 「行く・来る・聞く」などの意味を持つ、謙譲の特別表現である。  
 2 「です・ます・ございます」はすべて丁寧語であるということ覚えておこう。  
 3 「お持ちでない」は「お持ちになっていない」ということで、「おくになる」という形の尊敬語である。  
 4 「お越しになる」も尊敬の特別表現だが、「くくださる」も「くくれる」の尊敬表現である。  
 5 「いただく」は「もらう」の謙譲表現である。

4

1 線①をふくむ一文は「イヌ科の場合は」必要がありません。」となっているが、手順にのっとって「そんな」の指示内容を明らかにしても答えにはたどりつかない。直後の「つまり」という接続詞に注目して段落の残りの部分を読むと「チーム」ということばが出てくるが、◎の文の( )には合わない。こういうときは、線①からたどっていくというやり方ではなく、「話題」や「関連する語句」に注目して文章全体を俯瞰(全体を上から見ること)しなければならぬ。具体的にいうと、「イヌ科」について話しているところで、「集団」「助け合い」「群れ」「チーム」といったことばと関係のありそうなことばが出てくる場所を見つけていくことになる。答えは「それに対してネコ科の動物は、ぜんぶ独りでできますから、社会性とか、そういうのは必要ないんです。」という一文にふくまれていたため、その意味でもひとひねりされているのだが、この文の前の行には「集団」、さらにその前の行には「チームワーク」ということばが出てくる。もちろん、はじめに通読したさいに、「社会」ということばが印象に残っているというのが理想的である。

2 Bに「したがって」が入る理由を納得しておきたい。「鉤爪がないんだからそれをおおうさやもいらぬ」という流れである。

3 次行の「なぜなら」に注目すれば「平原だとエサをとるのに独りではどうにもならないから」という答えがいったん作れる。さらにそれはなぜかと考えれば「隠れる場所がないから」という内容を付け加えることができ、わかりやすい答えとなる。

4 「これは獲物を」爪ではなく」という書き方から、イヌ科と対比されているネコ科はどうかとさがせばよいことがわかる。

5 これはネコ科の話である。「捕食の道具」という表現でだいたいの見当がつけられる。

5

1 Aは「カン高い声」に、Bは叱り方であることに注意する。  
 2 「そろそろ」ということは、音を立てないように気をつけているということである。では、なぜ音を立てないのか、と順次文章から読み取っていけば、記述の材料はそろそろ。

3 清子が怒ってばかりなのはいつものことではなく、「ここ一月あまり」のことであるということから、チヅルの祖父すなわち清子の父のことが関係しているのだろうと見当をつける。

4 この部分だけでなく、(中略)以下の部分からも、この文章全体においてチヅルにとって何が問題になっていたのかをつかみ取っておきたい。通読時に正確な印象を持つことが重要である。

5 一文を読めば、「……いってくれる」とある。細部の読み落としに注意したい。  
 6 一文を読めば、「チヅルは肩で息をしながら」とあるのが見つかる。これを読み落としてはならない。

7 「峠をこす」で「さかんな／危険な時期をすぎると」という意味になる。  
 8 ずっと心配していたはずである。安心し、張り詰めていた気持ちが一瞬間に泣き出すというのは、物語でよく出てくる展開なので知っておいてほしい。